

横浜市インフルエンザ流行情報 5号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

インフルエンザによる入院患者が増加しています。

【概況】

2019年第1週(12月31日～1月6日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で7.89でした。(詳細は「市内流行状況」を参照)

第51週(12月17日～23日)以降、小児と高齢者の入院患者が増加しており、重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者も増加しています。

また、病院や高齢者施設等での集団発生の報告も続いています。各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

年齢別では、10歳未満の報告が全体の31.5%、15歳未満の報告が全体の42.9%を占めています。冬休みのため、学級閉鎖等は第52週と第1週には報告がありませんでしたが、第2週以降の報告数の増加が予想されます。

今シーズンの第1週までの迅速診断キットの結果は、累計でA型99.4%、B型0.6%と、A型が多く検出されています。全国のウイルス分離・検出状況^{※2}では、AH1pdm型、次いでAH3型が多く検出されており、横浜市でも同様の傾向です(1月9日現在、AH1pdm型36件、AH3型17件、B型0件)。

インフルエンザの本格的な流行に入ったため、正しい手洗い^{※3}等の予防、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策^{※4}が重要です。

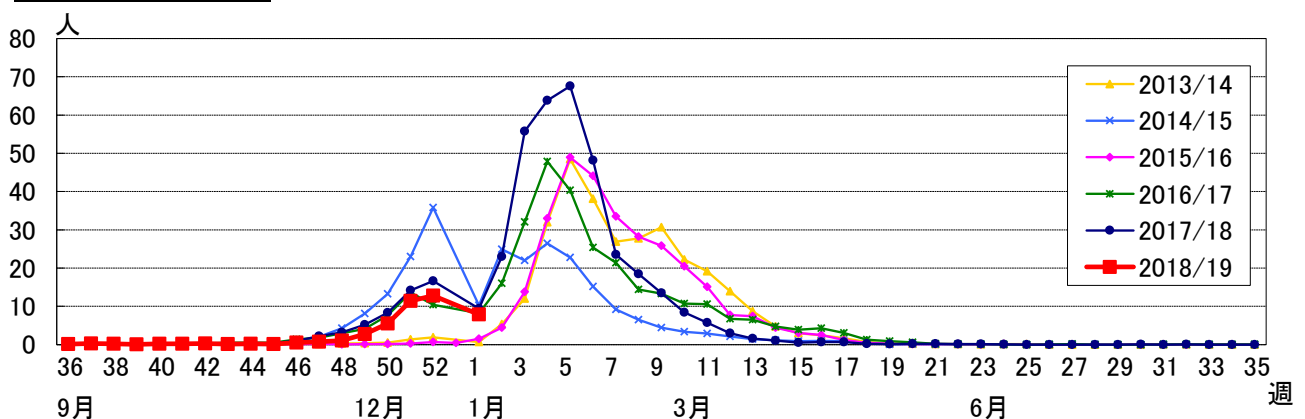
※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [インフルエンザウイルス分離・検出報告数\(国立感染症研究所、2019年1月10日作成\)](#)

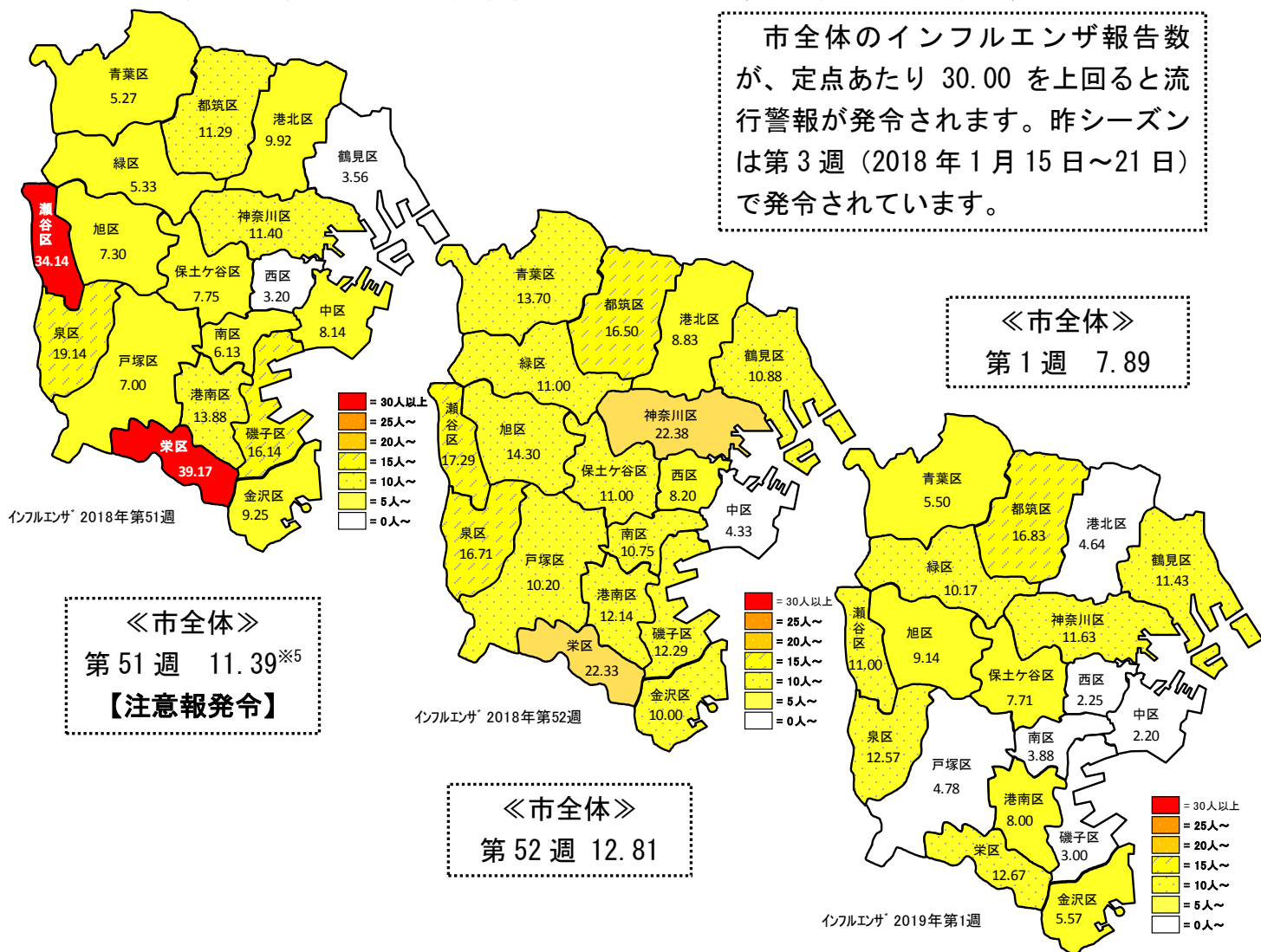
※3 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」、チラシ「咳エチケット」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※4 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第52週(2018年12月24日～30日)で12.81、第1週(2018年12月31日～2019年1月6日)で7.89となっています。これは年末年始にて定点医療機関が休診中のことが多いため、流行の実態を正確に反映していないことが考えられます。



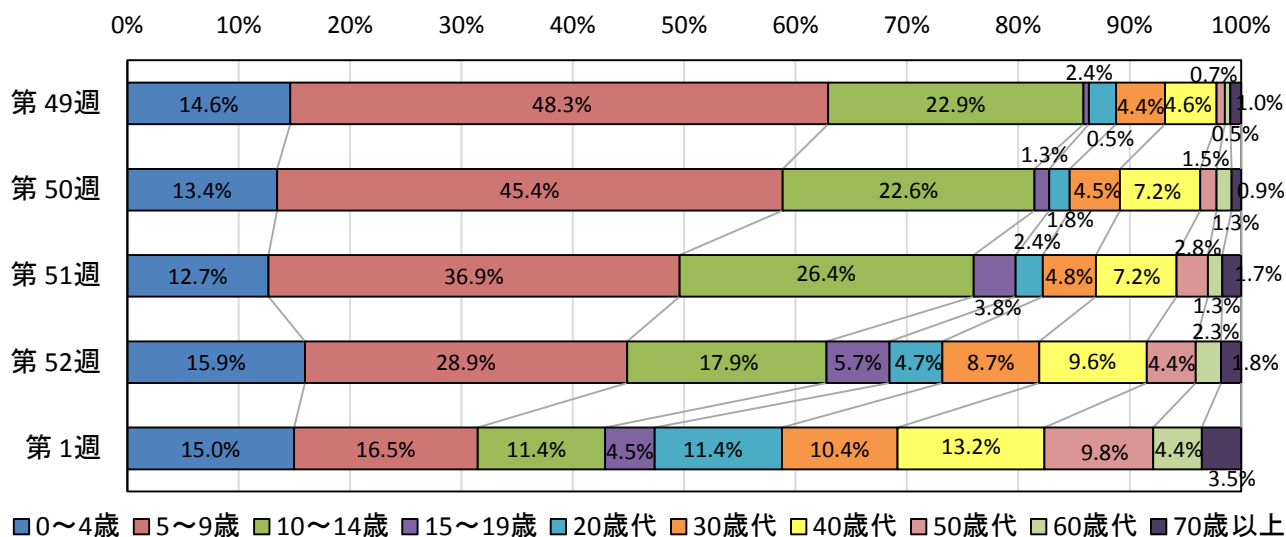
2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



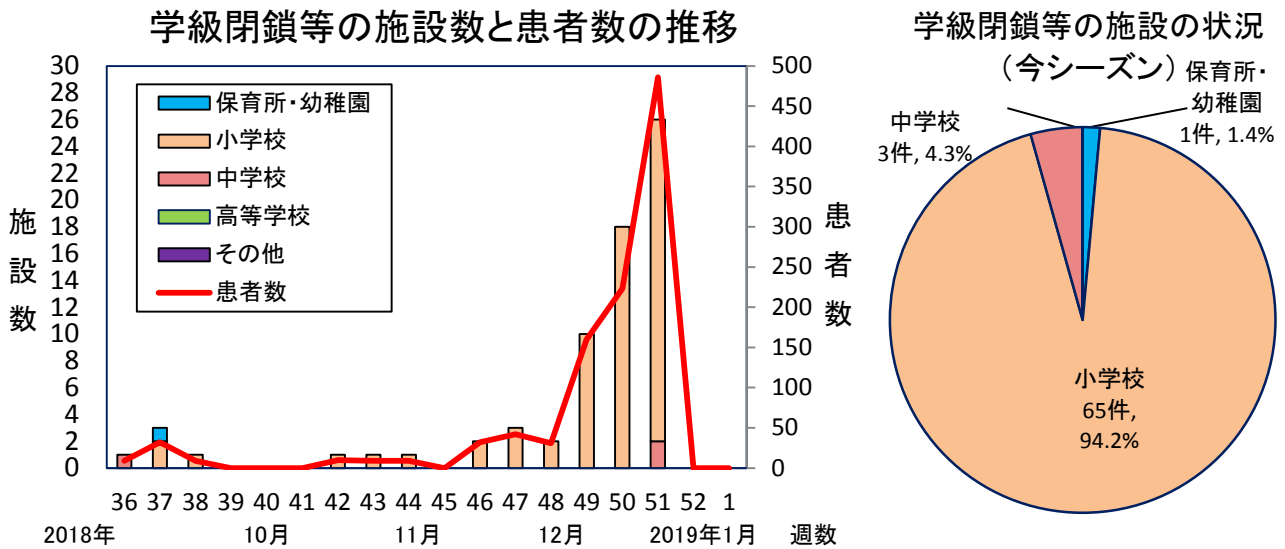
※5 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

3 年齢層別集計: 第1週の患者年齢構成は、5歳未満が15.0%、5歳から10歳未満が16.5%、10歳から15歳未満が11.4%となっており、10歳未満が全体の31.5%、15歳未満が全体の42.9%を占めています。

年齢層別患者割合



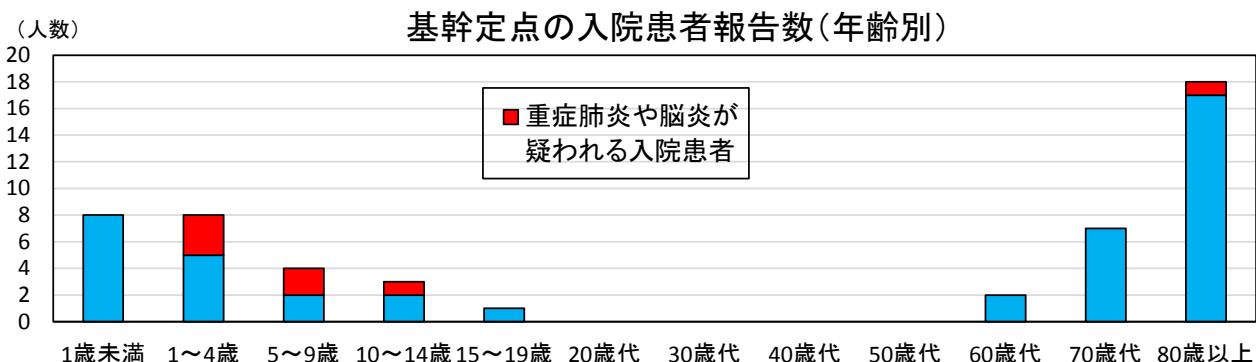
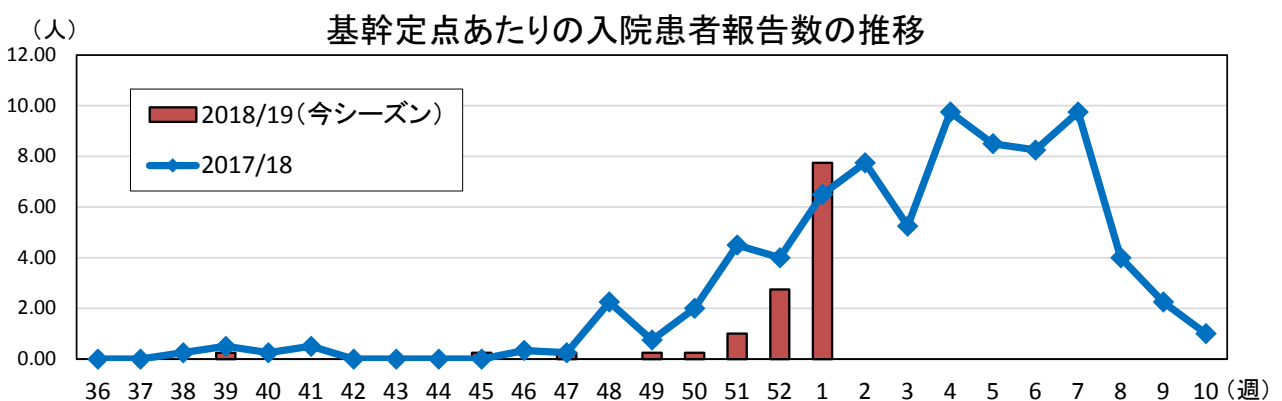
4 市内学級閉鎖等状況:第 52 週と第 1 週は冬休みのため、学級閉鎖等の報告はありませんでした。今シーズンの報告は累計 69 件^{※5}、患者数は延べ 1052 人^{※5}となっています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園 1.4%、小学校 94.2%、中学校 4.3%となっています。第 2 週より授業が開始されるため、今後、学級閉鎖等の報告の増加が予想されます。



5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※6}におけるインフルエンザ入院患者は、第 52 週で 11 人、第 1 週で 31 人の報告があり、今シーズンは累計 51 人(1 歳未満:8 人、1~4 歳:8 人、5~9 歳:4 人、10~14 歳:3 人、14~19 歳:1 人、60 歳代:2 人、70 歳代:7 人、80 歳以上:18 人)となりました。

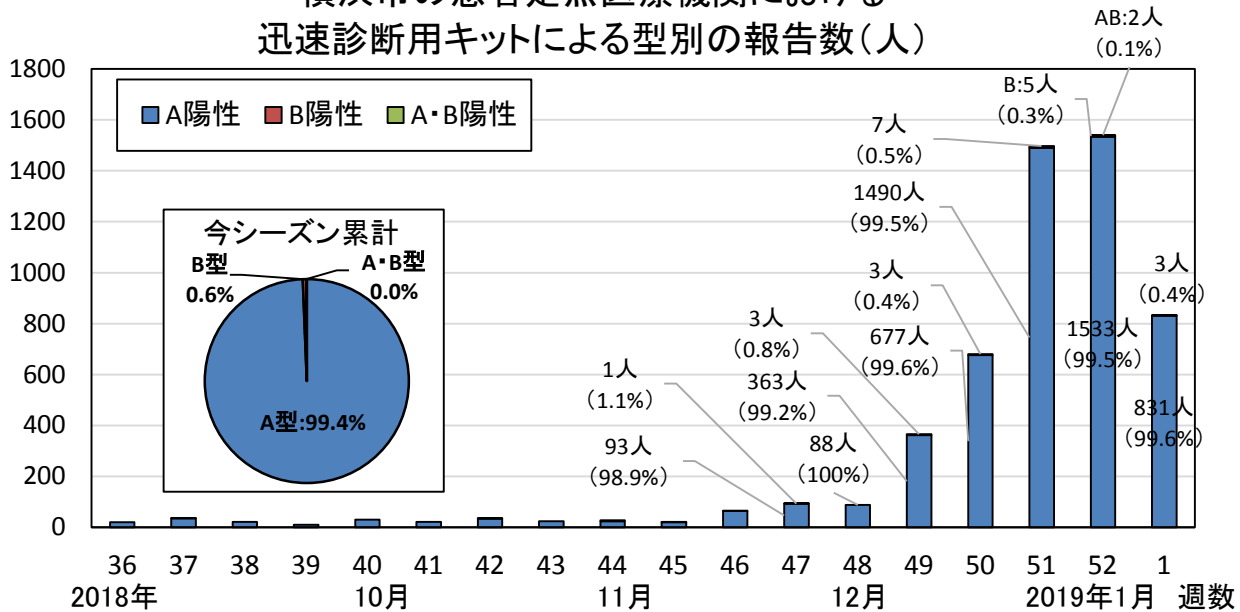
入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第 51 週で 1 人、第 52 週で 4 人、第 1 週で 2 人の報告があり、累計 7 人となりました。

※6 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。



6 迅速キット結果:第1週の迅速キットの結果は、A型99.6%、B型0.4%で、A型が多く検出されています。年末年始にて定点医療機関が休診中のことが多いため、流行の実態を正確に反映していない可能性もあり、小中学校の授業が開始される第2週以降の推移を注視していく必要があります。今シーズン累計では、A型99.4%、B型0.6%、A・B型ともに陽性0.0%となっています。

横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)

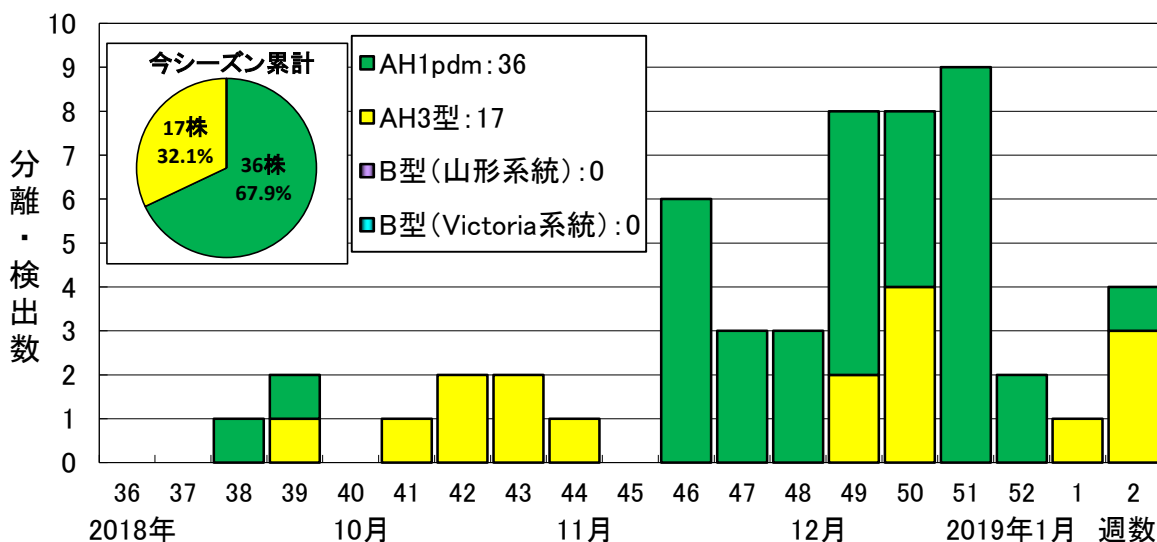


7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点^{※7}からAH1pdm(36株)、AH3(17株)、B(0株)が分離・検出されており、AH1pdmが多くを占めています。全国の分離・検出も同様の傾向と考えられます^{※2}。

※7 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2019年1月9日現在)



※参考リンク 近隣自治体の流行状況 ○神奈川県 ○川崎市 ○東京都
全国の流行状況 ○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2445